

人を、想う力。街を、想う力。

## 三菱地所グループ

2022年11月11日

報道関係各位

三菱地所株式会社  
三菱地所レジデンス株式会社  
三菱地所ホーム株式会社  
株式会社三菱地所設計  
株式会社三菱地所住宅加工センター  
MEC Industry 株式会社

### ～「ウッドデザイン賞 2022」三菱地所グループ全体で7件受賞～ モクウエルハウス MEC Industry の「MOKUWELL HOUSE」が 最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞

三菱地所グループの三菱地所株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、三菱地所ホーム株式会社、株式会社三菱地所設計、株式会社三菱地所住宅加工センター、MEC Industry 株式会社は、ウッドデザイン賞 2022において、「ザ・パークハビオ SOHO 大手町」「TOKYO BASE」「MOKUWELL HOUSE」など、合計7件が受賞、さらに、「MOKUWELL HOUSE」が最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞しました。

2019年「最優秀賞（農林水産大臣賞）」を受賞した「PARK WOOD 高森」、2020年「優秀賞（林野庁長官賞）」を受賞した「CLT PARK HARUMI」、2021年「優秀賞（林野庁長官賞）」を受賞した「ザ・ロイヤルパーク キャンバス 札幌大通公園」に引き続き、4年連続での上位賞受賞となりました。

#### <ウッドデザイン賞 2022 受賞プロジェクト一覧（全7件）>

【ライフスタイルデザイン部門「MOKUWELL HOUSE」】 ★最優秀賞（農林水産大臣賞）

【ライフスタイルデザイン部門「TOKYO BASE」】

【ライフスタイルデザイン部門「ザ・パークハビオ SOHO 大手町」】

【ハートフルデザイン部門「大手町ビル 大手町観音堂」】

【ソーシャルデザイン部門「株式会社オーシカ大阪事業所 第二倉庫」】

【ソーシャルデザイン部門「KIDZUKI」】

【ソーシャルデザイン部門「MEC Industry」】

「ウッドデザイン賞」は、林野庁の補助事業として2015年より実施されており、木の良さや価値を、デザイン力で再構築することを目的として、優れた建築・空間や製品、活動や仕組み、研究等を募集・評価し、表彰する顕彰制度です。8回目の今回から、一般社団法人ウッドデザイン協会の主催となり、新たなウッドデザイン賞では、SDGsなど、時代のニーズに合わせて3部門の審査ポイントを刷新したほか、技術・建材分野、調査・研究分野を設けて5部門に拡充しています。

三菱地所グループでは、CLTをはじめとした国産木材の活用を推進しています。今後とも、国産木材の活用により、国内林業の活性化や山林防災、ひいては地方創生等につなげていきたいと考えています。



▲MOKUWELL HOUSE

## ■受賞の概要

### 【MOKUWELL HOUSE】 最優秀賞（農林水産大臣賞）

（ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野）

MEC Industry 株式会社

#### <概要>

「MOKUWELL HOUSE」は、一般的な家づくりの流れをゼロから見直し、「中間コスト削減」「現場作業人工削減」という2つのイノベーションから大幅なコストダウンを実現した、日本初の、CLTを採用した純木造プレファブリック住宅です。

国産丸太の調達から製材、製造、販売まで、家づくりの全工程を自社で一気通貫に行うことで中間コストを削減。さらに、製造の大部分を自社工場でプレファブリケーション化することで現場作業の人工を削減し、工期の短縮も実現しました。これらのコスト削減から、1棟（約90㎡）990万円～（主要建物税抜き価格）の低価格での提供を可能にしました。

「MOKUWELL HOUSE」は、床と天井に高強度・断熱耐火性能を有する高性能建材であるCLT、壁に耐震・断熱・気密性に優れた2×4パネルを採用することで高い住宅性能を実現しています。このような高性能建材を自社で製材・製造することはもちろん、その組立に至るまで自社工場で機械化しており、「MOKUWELL HOUSE」の品質を高い水準で安定させ、高品質な商品の安定供給を行います。

さらに、国産木材の活用推進により、脱炭素・森林保全などSDGsへの貢献や、林業活性化に寄与しながら、工場での商品製造とプレファブリケーション化により雇用創出や建設現場の職人不足といった社会課題の解決にも貢献します。



▲外観



▲内観



▲工場内での建設作業

## 【ザ・パークハビオ SOHO 大手町】（ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野）

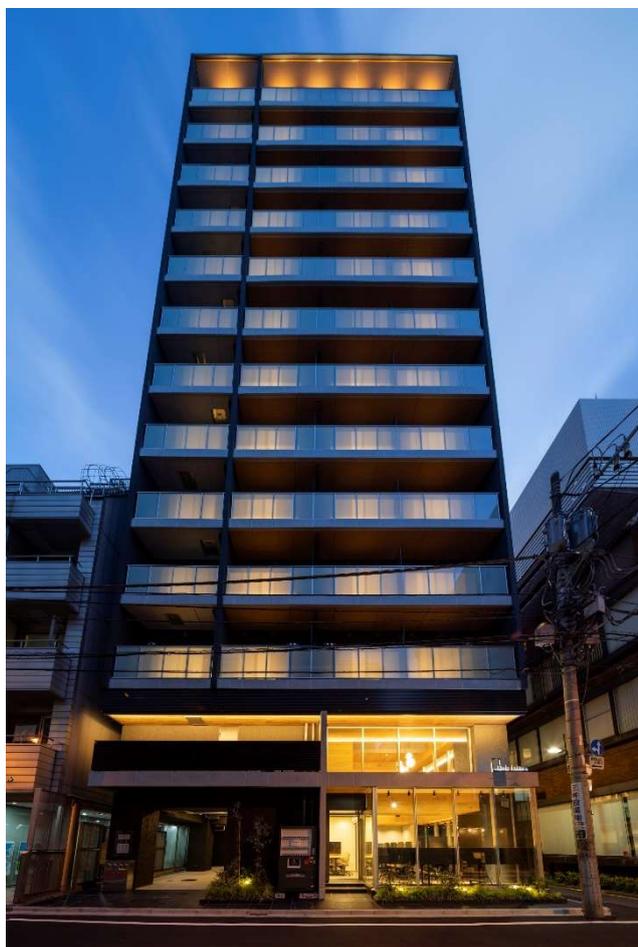
三菱地所レジデンス株式会社、MEC Industry 株式会社

### <概要>

「ザ・パークハビオ SOHO 大手町」は、1階にコワーキングスペースを併設した新たな職住一体型賃貸マンションシリーズ「ザ・パークハビオ SOHO」の第1弾です。仕事とプライベートの大半の時間をマンション内で過ごす居住者も多く、またオフィスの建ち並ぶエリアに立地しているため、街並みと調和し落ち着きを感じられる空間を提供したいと考えました。そのため、コワーキングスペースと一部の居室の天井には、MEC Industry が製造する「MI デッキ（配筋付型枠）」を採用し、性能を確保しつつも生活の中で木の温かみを感じ、長く住まうほど木の経年変化を楽しめる空間となっています。

「MI デッキ」は、鉄筋と木が一体化された型枠にコンクリートを打設することで、天然木のぬくもりを感じられる空間を創出します。また、仮設時の型枠材を仕上げ材と兼用しているため、型枠材の廃棄削減と建設時の作業負担軽減につながるだけでなく、建物全体の炭素固定を促してCO<sub>2</sub>削減に貢献することも可能になります。

さらに、国産木材の型枠材を使用するだけでなく、建物全体および各ディテールで一本の「大樹」を表現しています。外観は、オフィス群にも調和する、樹木の「外皮」をモチーフとした個性的な装飾系塗装材を採用。エントランスや内観全体は「内皮」として大樹の中の落ち着きを表現するため木材を多用。各階バルコニーの軒裏部は、コンクリートに木目調塗装を施すことで外からも大樹を連想させます。2階軒裏に採用した無垢の木材は、前面通りから木材の質感を確認でき、夜間は照明でライトアップ。木を照らす暖かな灯りが地域に落ち着きを与え、帰宅時に居住者を安心感で包み込みます。建物全体で居住者が利用シーンに応じ、木材の良さを体感できるようにしました。



▲外観



▲コワーキングスペース MI デッキ（天井部）



▲居室内 MI デッキ（天井部）

## 【TOKYO BASE】(ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野)

三菱地所ホーム株式会社

### <概要>

自社事業で使用する構造材(国産材)を、社員の感性を刺激する素材として活用し、自社事業に直結するイノベーションだけでなく、社会課題解決に向けた新たな価値を創発できるオフィス「TOKYO BASE」を企画設計しました。オフィスでは社員がイキイキと主体的に働くことができる環境整備も行っています。

国産材をオフィスで活用するにあたり、暖かさや居心地の良さを生み出すといった機能的側面からのアプローチだけではなく、木が持つ力強さや林業に携わる方々の木への想いを伝えることで、オフィスで働く社員や来訪する顧客などステークホルダーにも国産材の魅力やカーボンニュートラルを考えるきっかけを与え、社内外にSDGsの浸透を図っていくことを狙いオフィスの設計を行っています。具体的には、スギ・ヒノキ・カラマツの原木をオフィスに展示したほか、林業に携わる方々の仕事へのこだわりや想いをメッセージとしてオフィスの壁面で伝えています。木のサプライチェーンは単なる商品(製材)の受け渡しではなく、木に込められた人の想いも受け渡されていることを周知していくことで、オフィスに集まる人の感性を豊かにすることを狙いました。

社員がイキイキ働くことができる環境整備として、業務やタスクの内容に応じて最適な座席を選択する働き方であるABW(Activity Based Working)を採用しています。「Mori」と呼ばれるエリアでは社員がリチャージしながら最新情報をインプットできるほか、共創空間「Ground」においては、当社の中核的価値である国産材を活用した原木・カフェカウンター・造作家具に触れることで集まる人の感性を開き、共創して新たな価値創造を生み出すことができる空間設計を行っています。



▲Ground



▲Mori



▲TOKYO BASE エントランス



▲原木の展示

## 【KIDZUKI】(ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野)

三菱地所ホーム株式会社、株式会社環究コンサルティング、高い山株式会社、株式会社トラフ建築設計事務所、株式会社石巻工房、カリモク家具株式会社

### <概要>

「KIDZUKI」は、長年にわたり木造住宅を作り続けてきた三菱地所ホームが、より木のことを深く知り、さらなる魅力を見出すために始めたプラットフォームです。この取り組みでは、さまざまな背景を持つ幅広い分野の事業者、行政や教育機関、クリエイター、「木」と身近に過ごす生活者がそれぞれの持つ課題とソリューションをシェアし、「木」に関する新たな共創が生まれるネットワークの形成を推進します。

参加者によってつながれたネットワークを通じて、社会課題に対するソリューション、木の価値の向上、木造木質化産業の活性化、事業者の健全な利益追求、「木」を通しての喜びや安らぎにより人々の心を豊かにすること、といった多種多様で新たな価値を創出し、木造木質化を促進、持続可能な豊かな未来の実現に貢献します。



## 【大手町ビル 大手町観音堂】（ハートフルデザイン部門 建築・空間分野）

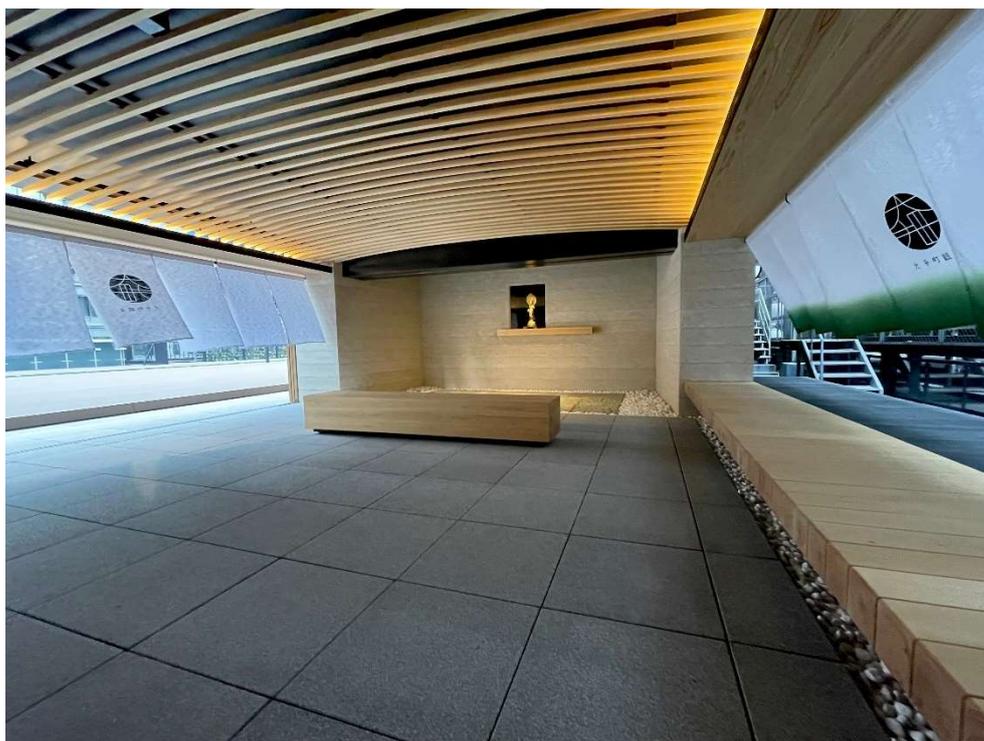
三菱地所株式会社、株式会社三菱地所設計

### <概要>

大手町ビルの屋上にある大手町観音堂には、竣工以来 60 年以上にわたり繁栄と息災を祈願する観世音菩薩尊像（観音像）が祀られていました。当時は機械置場の一部として使われており、限られた時期にのみ公開されていたため、観音像の姿を知る就業者はごく一部でした。2022 年、大手町ビルの全館大規模リニューアルの一環として、屋上も大丸有の就業者に新しく開かれた憩いの場所に生まれ変わりました。この観音堂も祈りの空間であると同時に、様々な人たちが集い、都心のこの場所で光や風の流れ・四季の移ろいを感じながら出会い交流する場所となることを期待しています。

観音堂の入口には結界をつくる幔幕を掛けて、季節ごとに吹く風をそっとつかまえ、外陣を優しく包む曲線のヒノキ格子天井、参道の杉格子、祭壇やベンチ、鴨居も全て国産の無垢材を使い心地よい環境を設えました。

参道は、岐阜のヒノキや杉を無垢材のまま使い、手触り・香り・色彩で参詣者の心を整え穏やかな気持ちをつくります。手や足が直接触れるベンチ等は、触れたくなるような柔らかい形状に細やかな三次曲面のディテールを施し、外部で雨に触れる箇所には熱処理を行っています。古くからの背割りなどの心遣いに加え、新しい技術を融合させて永く愛される自然素材の環境づくりに取り組んでいます。



▲内観



▲外観



▲観音像

## 【株式会社オーシカ大阪事業所 第二倉庫】（ソーシャルデザイン部門 木製品分野）

株式会社オーシカ、株式会社三菱地所住宅加工センター、株式会社崎山組

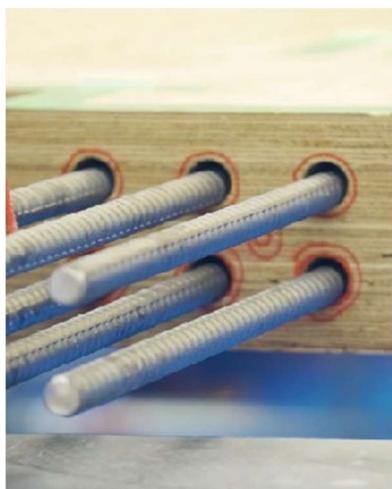
### <概要>

オーシカ大阪事業所 第二倉庫は、桝組壁工法を主構造とし、大スパンの屋根部分は GIR 接合を用いた大断面 LVL 及び I 型ジョイストにより構成された平屋建倉庫です。壁・屋根野地には国産材の構造用合板、スタッド材として杉 LVL を使用、梁材は大断面杉 LVL (150×1200) を陸上で GIR 接合しました。桝組壁工法と単純梁とのシンプルな構造で大空間ができます。国産 LVL 長は 6m (標準) のため梁材を陸上で GIR 接合し、鉄骨造の剛接合が木造でも実現できる GIR を利用しました。国産材の利用拡大を進めるため、従来木造技術の延長で鉄骨造の大スパン構造のリプレースを図りました。

国内においての運搬条件の制約があり、材の長さが木造の場合、材長は 6m・12m に制限されます。鉄骨造の場合は、剛接合技術がすでに確立されています。木造の場合は、従来はアーチ工法・トラス工法で大スパンを実現しており、桝組壁工法に単純梁を組み合わせたシンプルで単純なディテールを用いた建物はありませんでした。ファサードの大間口 (16m) についても、マグサとして GIR 接合の LVL を使用しました。また、剛性を確保するため、現場陸上 GIR 接合作業を行い、施工品質向上に加え低コストを実現しました。



▲外観



## 【MEC Industry】(ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野)

MEC Industry 株式会社

### <概要>

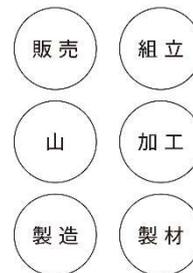
MEC Industry は、国内林業活性化のための新たなビジネスモデル「統合型最適化モデル」を構築しました。林業の既存ビジネスフローでは、商品の製造段階ごとに事業者が川上から川下まで細かく分業し、売買が繰り返されることで、中間コストが多く発生していました。一方、三菱地所グループにおいては、木質建材を自社アセットに利用するデベロッパーの立場として、求めるニーズが生産者や製造者に届かないケースを多く経験していました。MEC Industry は、林業・建築業の各分野の精通した複数の企業で構成されているため、各社のノウハウを生かし、生産から加工、販売まで一気通貫で行うことで、高品質な商品を安定的に安く提供できる体制を整えました。また、販売側から顧客ニーズの情報を元にマーケットイン型での商品開発が可能になり、販売から逆算した効率的な製造運営、各プロセスのストーリーを踏まえた顧客営業と、経済合理的かつ実用的な資材開発を行うことができます。

MEC Industry では、伐採前に素材生産事業者に欲しい木材を伝える「プル型」の調達スタイルにより、従来は有効活用が難しかった大径木を利用するなど、調達コストを抑制しながら山林所有者にもメリットのある調達を行います。木材需要の拡大に寄与することで、将来的には日本の林業の育成・森林資源の循環をも促し、木材消費量の減少による林業従事者の減少・国内の森林の老化といった社会課題への貢献も目指すとともに、地元の雇用を創出し地方創生にも貢献することで「まちとりの架け橋」となることを目指しています。

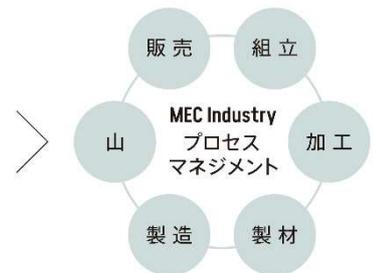


▲鹿児島湧水工場 外観

#### 既存ビジネスモデル



#### 統合型最適化モデル



新建材事業



MOKUWELL事業



木有活事業